

# ナウマン通信



2021年  
2月1日発行  
第33号

大阪市立我孫子南中学校

## 鬼はそと～ 福はうち～



早いもので今日から2月がスタートしました。時間の経つのは本当にあっという間で、改めて一日一日を大切にしないといけないと感じています。今日の全校集会でお話ししましたが、今回は『節分』について紹介したいと思います。例年2月3日が節分とされていますが、今年は明日2月2日が節分になります。例年より1日早い節分は、1897年以来**124年ぶり**のことです。節分はもともと季節を分ける日という意味で、本来は立春、立夏、立秋、立冬の前の日を指しています。現在の暦には立春前日の節分だけが残っていますが、これは江戸時代以降、四季が一巡する立春前日を節分とするようになったからと考えられています。では、なぜ今年の節分が2月2日になるのでしょうか？これには、地球が太陽をまわる周期と暦のずれが関係しています。地球は1年かけて太陽の周りをまわっていますが、その1年は正確に言うと365.2422日、つまり365日+6時間弱となります。この6時間弱という端数は4年経つとほぼ1日となるため、うるう年（2月29日のある年）を設けることで解消することができます。ただ、この補正を行うと今度は約45分増やしすぎた状態となり、このずれを解消するためには、うるう年を400年で3回減らす必要があります。こうした補正が繰り返されることで、立春、立夏、立秋、立冬などの日付が変わり、それに伴い節分も変動することとなります。これによって今年は2月2日ということになるそうです。さて、立春を1年の始まりとしていた頃は、節分が現在の大晦日にあたるため、様々な年越し行事が行われていました。大豆を炒った福豆をまいて邪気を祓い、年の数だけ豆を食べて1年の幸せを祈る豆まきや鬼が嫌うとされる臭いが強いイワシとトゲがあるヒイラギを使い、「柊鰯(ヒイラギイワシ)」を玄関に飾る風習などもそうです。「縁を切らない」という縁起担ぎで、恵方を向き願い事を思い浮かべ、恵方巻を黙々と食べる人もいます。今年の恵方は「南南東」です。今年の節分行事は日付を間違えず、2月2日に行いましょう。そして何よりもこの神秘的な宇宙のリズムの中でたまたまこの時に地球に生まれ、この地域で育ち、我孫子南中学校で出会ったことは奇跡だと思います。それなのにせっかく出会った仲間を傷つけたり、苦しめたりすることは本当にもったいないことだと思います。みんなが一人ひとりを大切にできるあったかい人に成長してくれることを心から願っています。